



2020年度 活動報告

特定非営利活動法人STORIA

2020年10月1日~2021年9月30日

-代表メッセージ-

STORIA は、2016 年に『「貧困の連鎖」から「愛情の循環」へ』というビジョンを掲げ、経済的・精神的な困難を抱える家庭と子どもたちのサポートを始めました。子どもたちには、たくさんの愛情を注ぎ、生まれ持った可能性が存分に発揮される様々な体験の機会を作り、一人ひとりに寄り添う活動を行ってきました。

しかし私たちは、「貧困を断ち切るだけで、子ども達は幸せな人生が送れるのだろうか」という一つの疑問を抱きました。

2020年度には、スタッフをはじめ、地域や学生ボランティア、プロボノ、そして子どもたちと共に「子どもも大人も一人ひとりが自分らしく生きられ、幸せになる場づくり」について皆で対話を重ねました。そこで私たちは、「子どもたち一人ひとりが自分らしく生きられ、幸せになること（すべての子どもたちのウェルビーイングを実現する）」ことを、STORIA の目指すゴールにしました。

それは、子どもたちがありのままにいられる場があること、そして愛情のある関わり合いが子どもたちの自己肯定感を育み、自分の意思で人生を切り拓きながら幸せに生きていく礎になることに気が付かされたからです。

その礎を築くためには、子どものみならず、保護者をはじめ、子どもたちに関わる大人が幸せであること、子どもも大人も尊重される社会であることがとても大切であると私たちは考えました。

また、事業面では、長引く新型コロナウイルスにより、困難を抱えるご家庭やその子どもたちが更なる困難を強いられる事態となり、私たちの活動も「子どものサポート事業」に加えて、「保護者のサポート事業」を行政や企業、様々な団体と連携をしながら大きく広げることとなりました。社会情勢も大変厳しい中、多くの方々のあたたかいご支援やご協力により、STORIAでは約600世帯以上のご家庭と子どもたちに出会うことができ、改めて私たちSTORIAの存在意義を感じる年となりました。

たくさんの愛情と機会を得て「自分らしさや幸せ」へ向かう子どもたちは、他者の幸せをも願いアクションできる人へと大きく変化をしています。この一人ひとりの変化が、私たちSTORIAの新たなVISIONである『愛情が循環する未来へ』に少しずつでも向かっていると実感しています。

STORIAを支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、2020年度の活動報告をお届けいたします。

特定非営利活動STORIA 代表理事 佐々木綾子



1. コロナ禍の影響

-子ども達や保護者の現状-

新型コロナウイルス感染症が長引く影響で、保護者の失職、休業やシフトが減らされるなどで困窮がさらに悪化しました。生活苦が続くと、就労・子育て・教育費・医療・住居などの複合的な悩みも重なります。過酷な生活を続けていくうちに、ストレス、子育てや家計のやりくり、将来が見えない不安などにさいなまれ、精神的なバランスを崩す方も少なくありません。

このような環境の中で子どもたちは、「子どもらしさ」を失っていきます。その結果、「さびしい」という素直な感情を伝えられなくなったり、「あれがほしい」「これがしたい」という素直な欲求を表現できなくなっていくます。

また、コロナにより人と接触する機会が著しく減りました。さらには、子どもの成長にとっても大切な多様な体験の機会が得られない状況です。これらの影響により、保護者も子どもも孤立化が増し、家庭や子どもが抱える問題が潜在化かつ深刻化しています。

-事業への影響-

私たちはこれまで、「子どものサードプレイス事業」を中心として、子どもと保護者を包摂するサポート行ってきました。しかしながら、コロナ禍の影響で苦しんでいる多くのひとり親や孤立している家庭にもっと広く繋がる必要があると思い、新たな事業「孤立する家庭を防ぐアウトリーチ事業」を行政と協働で立ち上げました。困難を強いられているご家庭と子ども達と直接接しているからこそ、必要を素早く知り、ステージごとに変化する必要に応じた事業が行えたと思っています。

はじめに 2021年度の事業背景



II 今、困難を抱える家庭の子どもと保護者に必要な支援とは

1. 「緊急の食糧支援」

コロナ禍によって経済的貧困が強まった家庭に対する食糧支援と、「ひとりじゃない」という想いを届ける支援。

2. 「アウトリーチ事業」

ひとり親や困難を抱えている家庭を孤立化させないため、また、刻々と変化する暮らし・仕事・育児・介護等の状況を把握し必要な支援をタイミングよく提供するために相談窓口を開設し、相談支援・同行支援・情報発信などを積極的に行う。

3. 「子どものサードプレイス事業」

子どもが貧困を理由に生きる力(非認知能力)を育む機会を失わないようにする。

子どもたち一人ひとりが自分らしく生きられ、幸せになるための土台を育む。

4. 「子どものサードプレイス事業」

困難を抱えた子どもや保護者を発見・見守る・支える・育むコミュニティを地域と共につくり、親だけでなく、地域の第三者や多様な大人たちと子どもを一緒に育てる。

5. 「啓発活動」

こどもの貧困に対してアクションを共にしてくださる人を増やす。

6. 「アドボカシー活動」

脆弱なひとり親や親支援の制度を提言する。

Table of Contents



-目次-

- 1 事業の全体像
- 2 子どものサードプレイス事業
- 3 ひとり親等の相談支援事業
- 4 コロナ禍の緊急サポート事業
- 5 その他
 - 要保護等見守り支援事業
 - 一般家庭向共育事業
- 6 収支報告
- 7 STORIAを支えてくださった方々
- 8 MSCによるSTORIAの価値評価
- 9 2020年度の採択助成金
- 10 2021年度に向けて

1 事業の全体像

これまでSTORIAが困難家庭の子どもに行ってきた「非認知能力（子どもの可能性を切り拓く）」ためのノウハウを一般家庭向けの共育事業に生かし、共育事業で得た収益を困難家庭向けの子ども達へ循環させるモデルを実施した。

VISION 愛情が循環する未来へ

STORIA

困難家庭向け事業

経済的・様々な困難を抱えるご家庭と子どもを対象

子どものサ
ードプレイ
ス事業

ひとり親
家庭等の
相談事業

緊急サポー
ト事業
宅食・食糧

啓発
政策提言
事業

行政・企業・他団体・市民等の多くの方々と連携しながら実施する

genius

一般家庭向け共育事業

未来型共育を希望するご家庭と子どもを対象

子どもの
非認知能力
開発事業

保護者の
サポート事業
(子育て等)

企業・他団体・市民等の多くの方々と連携しながら実施する

1 2020年度 実施事業



| 事業概要 | 事業名 | 開始日 |
|---------------|--------------------|-----------|
| 子どものサードプレイス事業 | 地域で子どもと家庭を見守り支える事業 | 2016/7/1~ |
| ひとり親等の相談支援事業 | 孤立家庭を防ぐためのアウトリーチ事業 | 2021/4/1~ |
| | ひとり親生活向上支援事業 | 2021/4/1~ |
| 緊急サポート事業 | コロナ禍における緊急サポート事業 | 2019/3/1~ |
| その他 | 要保護児童等見守り強化支援事業 | 2021/6/1~ |
| | 一般家庭向け共育事業 | 2021/4/1~ |

-子どものサードプレイス事業

- ・ 仙台市宮城野区にて2016年から1号拠点スタート。2021年に2号拠点の開設準備を行った。

-ひとり親等の相談支援事業

- ・ 仙台市子供家庭支援課との協働事業にて、「孤立を防ぐためのアウトリーチ事業」を開始した。
- ・ 仙台市子供家庭支援課から「ひとり親等生活向上支援事業」の委託を受け、相談支援を行った。

-緊急サポート事業

- ・ コロナ禍で経済的困難を強いられている家庭へ食糧支援や生活相談支援を他団体と協働で行った。

-その他

- ・ 仙台市子供家庭支援課から「要保護児童等見守り強化支援事業」の委託を受け、特に困難な家庭の見守り支援を行った。
- ・ 新規事業として一般家庭向け共育事業「genius」を収益事業として立ち上げた。

2 子どものサードプレイス事業

経済的・精神的困難を抱える家庭と子どもたちを対象に、子どものサードプレイス（居場所）を地域と協働で開催。子どもには、『非認知能力の向上（生きる力と子どもの可能性を切り拓く）』、保護者には『子育て・経済・法律・教育費・就労支援などの総合相談支援』を実施し、包摂的なサポートを行った。

87回
サードプレイスの開催

680人
こどもを支援（延べ）

〈開催場所について〉

仙台市内の市営住宅や県営住宅等のひとり親や困難家庭が多い地域の集会所にて地域と行政と協働をしながらサードプレイスを開催した。

2020年度の前期はコロナのためサードプレイスの開催数は減ったが、2021年度は、子どもの出席率も高く、子ども達にとっては安心・楽しい・たくさんの体験とチャレンジができる居場所となった。

開催地域 仙台市宮城野区



| 月 | 2020 | | | | | | 合計 | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | |
| 開催回数 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 37 | 回 |
| 子ども来所人数 | 25 | 32 | 33 | 30 | 36 | 33 | 278 | 人 |
| 出席率 | 78.1% | 80.0% | 82.5% | 75.0% | 90.0% | 82.5% | 82.5% | % |
| ボランティア/スタッフ数 | 54 | 47 | 51 | 68 | 64 | 51 | 525 | 人 |

| 月 | 2021 | | | | | | 合計 | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | | |
| 開催回数 | 7 | 9 | 8 | 9 | 9 | 8 | 50 | 回 |
| 子ども参加人数 | 56 | 69 | 73 | 65 | 74 | 65 | 402 | 人 |
| 出席率 | 93.2% | 95.8% | 98.4% | 90.3% | 97.7% | 95.5% | 95.4% | % |
| スタッフ数/ボランティア | 52 | 78 | 83 | 73 | 95 | 92 | 473 | 人 |

2 子どものサードプレイス事業

子どもには「まなび・食育・非認知能力向上プログラム」を実施し、子どもの一人ひとりの可能性を切り拓く活動を行った。



まなび



食育



◆まなびサポートの様子◆

宿題は自分がやると決めた時間に行い、大人はこどもの言葉を信じて見守ります。また、「まなびがおもしろい！・楽しい！」と思える経験をたくさん用意し、スタッフやボランティアさんと一緒に楽しみながら、生きるための知識と知恵を身に付けていきます。



◆食育の様子◆

地域ボランティアさんが栄養のある料理や季節に応じた料理で、子どもたちの心身の成長を支えています。また、スタッフやボランティアさんとの団らんの機会や子どもたち自らが楽しく調理をする機会も作っています。今年度は野菜づくりにもチャレンジしました。



2 子どものサードプレイス事業

非認知能力：オンラインショップ

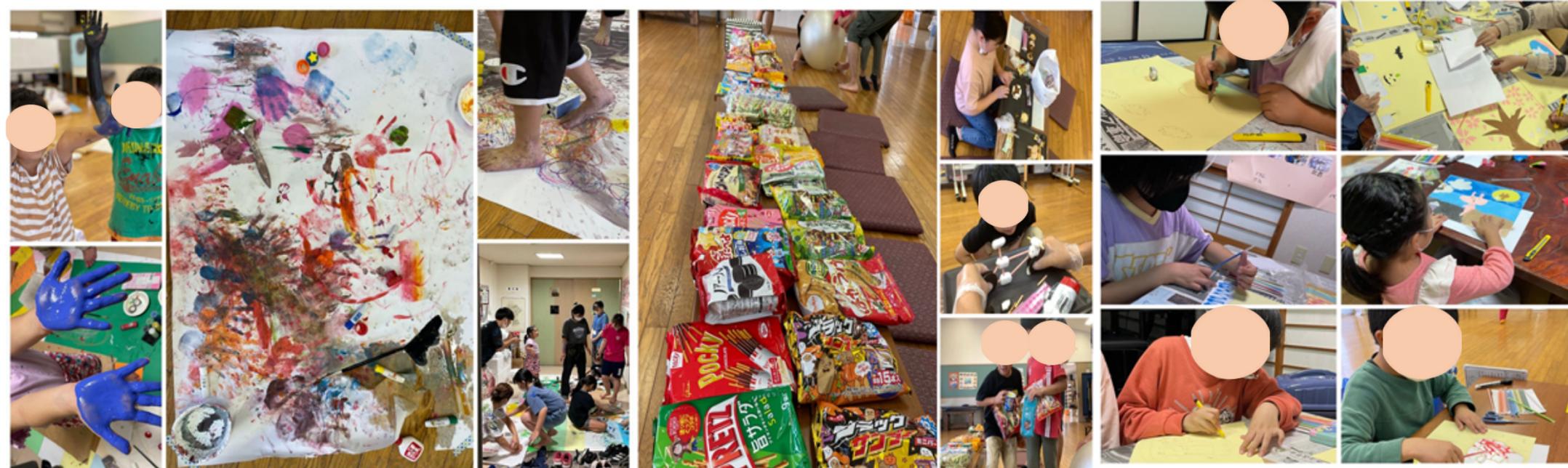
子どもたちの「やってみたいを叶える」非認知能力プログラムを実施した。コロナ禍でもやれることを子どもたち自身で考え、『オンラインショップ』の開設や『アート展をつくろう！』など、たくさんのプロジェクトにチャレンジした。非認知能力の効果測定では、全児童の非認知能力が、全ての項目において向上した。



◆オンラインショップの様子◆
子どもたちはデザイナーとしてロゴの作成・バックのデザイン・撮影までを自分達で行い、オンラインショップを開設し販売まで行った。お客様が購入くださった喜びがよい体験となり、自己効力感が高まった。

- ◆その他
- ①アート展
 - ②お菓子の世界
 - ③砂絵の展示会

その他、年間約12回以上のプログラムを実施。



2 子どものサードプレイス事業

〈非認知能力の効果測定と考察〉

子どものサードプレイスに参加している子ども17名に対し、非認知能力の効果測定を実施した。

結果として、全児童の非認知能力が上がった。特に一番高かったのが「①思ったこと、いつもやっていることを立ち止まれる（自制心）」である。次に高かったのが「③相手が何故そのような気持ちであるか理解することができる（共感性）」であり、続いて「②状況に合わせて行動する（協調性）」「⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする。（社会適応性）」であった。

この結果に至った理由としては、子どもたち自身が、この子どものサードプレイスは自分たちにとって大切な場所であると認識しているため、異年齢の価値観や考え方を吸収し、互いが過ごしやすいようにと、自制心や共感性、そして協調性が育まれたと考えられる。

また、体験プログラム（非認知能力向上プログラム）においても、自ら「やりたい」と企画したプログラムを良い結果にしたいという意欲や積極性が生まれ、「⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする。（社会適正性）」が醸成されたと言える。これらの豊かな人間関係を通し、失敗を受け止めてくれる場所、失敗しても助けてくれる大人や仲間がいることを実感し、失敗を恐れることなく様々な経験や挑戦へと向かう力が育まれてきている。（*下記の図表を参照）

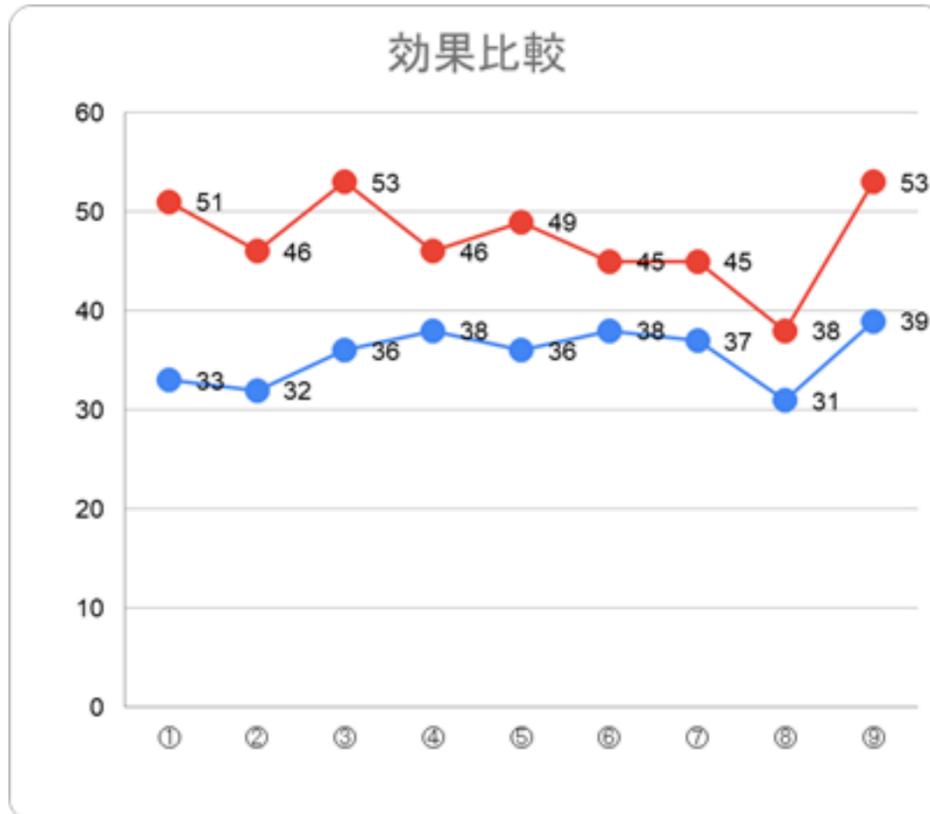
本来、非認知能力は、家庭環境の中で幼少期から児童期にかけて培われる力と言われているが、先に述べたように、ひとり親や親自身が困難を抱えている家庭ではその醸成はとても難しい。子どものサードプレイスは「無償の愛情」と「日常、非日常の生きた学びと多様な経験が得られる」場所として、家庭の代替をする役割を担っているとも言える。

〈効果測定内容〉

■実施日：2021年4月～2021年9月10日

■対象者：子どものサードプレイスに参加している小学1年～6年生17名

■計測者：特定非営利活動法人STORIAスタッフ5名・アドバイザー1名



| 非認知能力項目 | Before | After | 差 | 呼称 |
|----------------------------------|--------|-------|----|------------|
| ① 思ったこと、いつもやっていることを立ち止まれる | 33 | 51 | 18 | 自制心 |
| ② 状況に合わせて行動する | 32 | 46 | 14 | 協調性 |
| ③ 相手が何故そのような気持ちであるか理解することができる | 36 | 53 | 17 | 共感性 |
| ④ 思っていることとは違う行動をしてしまうことあると理解している | 38 | 46 | 8 | 自己認識 |
| ⑤ 相手が何故そのような行動をしたか考えることができる | 36 | 49 | 13 | 想像性 |
| ⑥ 体験したことを振り返ることができる | 38 | 45 | 7 | メタ認知ストラテジー |
| ⑦ 人と対立しても乗り越えようとする | 37 | 45 | 8 | 回復性 |
| ⑧ 言葉を使って気持ちを表現・理解できる | 31 | 38 | 7 | 創造性 |
| ⑨ 相手を助けたり、相手のために何かしようとする | 39 | 53 | 14 | 社会適応性 |

3 ひとり親等の相談支援事業

◆孤立する家庭を防ぐためのアウトリーチ事業/ひとり親生活向上支援事業

仙台市と協働で、メール相談（24時間受付）を主軸とした相談窓口「POLLUX」の開設と総合相談支援を行った。

子どものサードプレイスにて協働している地域や他団体とも連携し、積極的なアウトリーチを実施した結果、想定以上の家庭と繋がることのできた。本事業のニーズが大きいということがわかった。



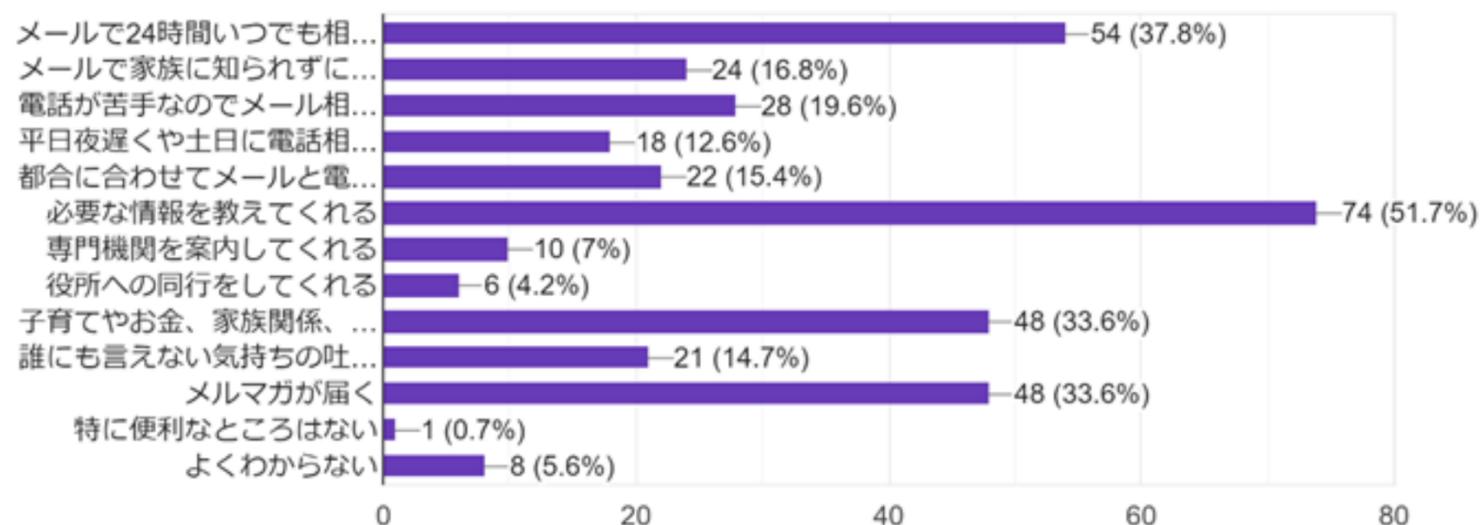
*20214月~9月末までの実績



〈アンケート〉 対象: POLLUX利用者 実施:2021年10月 (N=139)

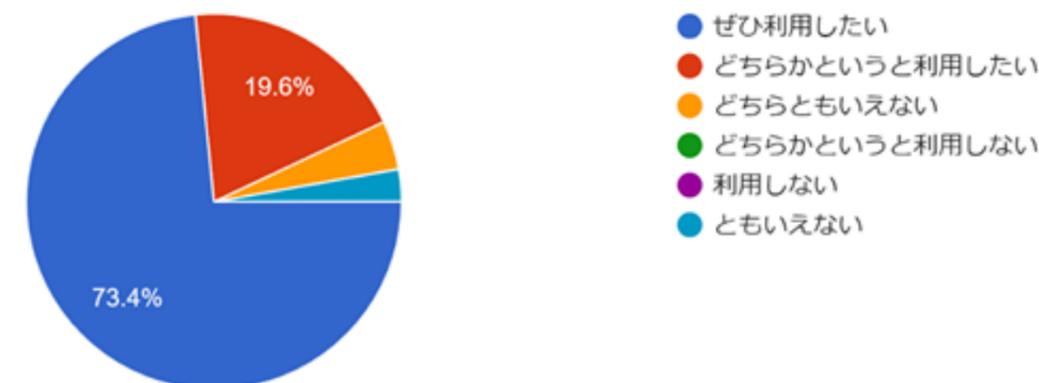
Q2. POLLUXはどのような点が便利ですか。(当てはまるものをすべてお答えください。)

143 件の回答



Q5 今後もPOLLUXを利用したいですか。

143 件の回答



4 コロナ禍の緊急サポート事業

ひとり親等の困窮している子育て家庭を対象に、ご寄附を活用し食糧支援を実施した。
また、食糧支援を通して生活支援等の相談支援も実施し、ご家庭の根本的な課題解決を目指した。

〈食糧支援〉

1,218
世帯



5 その他 要保護児童等見守り強化支援事業

仙台市から委託を受け、要保護児童等見守り強化支援事業を実施した。

102
世帯

| | のべ 訪問回数 | 訪問回数毎の世帯数 | | | | | 合計 |
|--------|------------|-----------|----|----|----|----|-----|
| | | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | |
| 青葉区 | 80 | 0 | 0 | 5 | 5 | 9 | 19 |
| 宮城総合支所 | 30 | 1 | 0 | 0 | 1 | 5 | 7 |
| 宮城野区 | 260 | 0 | 2 | 3 | 13 | 39 | 57 |
| 泉区 | 84 | 0 | 0 | 2 | 7 | 10 | 19 |
| 合計 | 454 | 1 | 2 | 10 | 26 | 63 | 102 |



給食がない長期お休み期間に食品をお届けします
対象地域：青葉区・宮城野区・泉区

子ども宅食 費用 100名

給食がなくなり、食費や家事の負担が増える夏休みや冬休み、お子様や保護者の皆様は、安心して長期のお休みを過ごせるように、食品をお届けするサポートを始めました。

サポート内容
食品や生活用品の配達
お米、レトルト食品、スープやジュースなど、お子様がすぐに食べられる、簡単に調理しやすい食品を週1回お届けします。
子育て・食生活相談
●相談は無料です。
●子育て・お食生活などの悩みに関する相談員が対応いたします。
●メールや電話など、長期休み以外でも相談可能です。

対象
仙台市内（青葉区・宮城野区・泉区）にお住まいの小学生・中学生のご家庭。

サポート期間
2021年度の長期休業期間（夏休み、冬休み、春休み）
※原則週1回のお届けとなります。

ポイント
① 個人情報や相談内容など、秘密は守ります。
② 食品の受け取りはお子様でも可能です。
③ 食品以外にお菓子や生活用品もお届けします。

申込方法
下のQRコードを携帯電話のカメラで読み取り、登録をお願いします。
お電話やメールでも申し込みいただけます。

080-3335-3828
平日 10:00~18:00
土日 13:00~17:00
info@smile.storia.or.jp

STORIA 株式会社 特定非営利活動法人 STORIA (3A-1-97)
仙台市青葉区中央4-10-604

6 一般家庭向け事業「genius」

geniusでは、STORIAでこれまで培った体験学習を一般家庭向け事業へ生かし、geniusで得た収益をSTORIAの困難家庭向け事業へ回す、循環モデルのトライアルを開始した。

genius

カラダで感じてココロで考え
世界を未来をクリエイトしよう

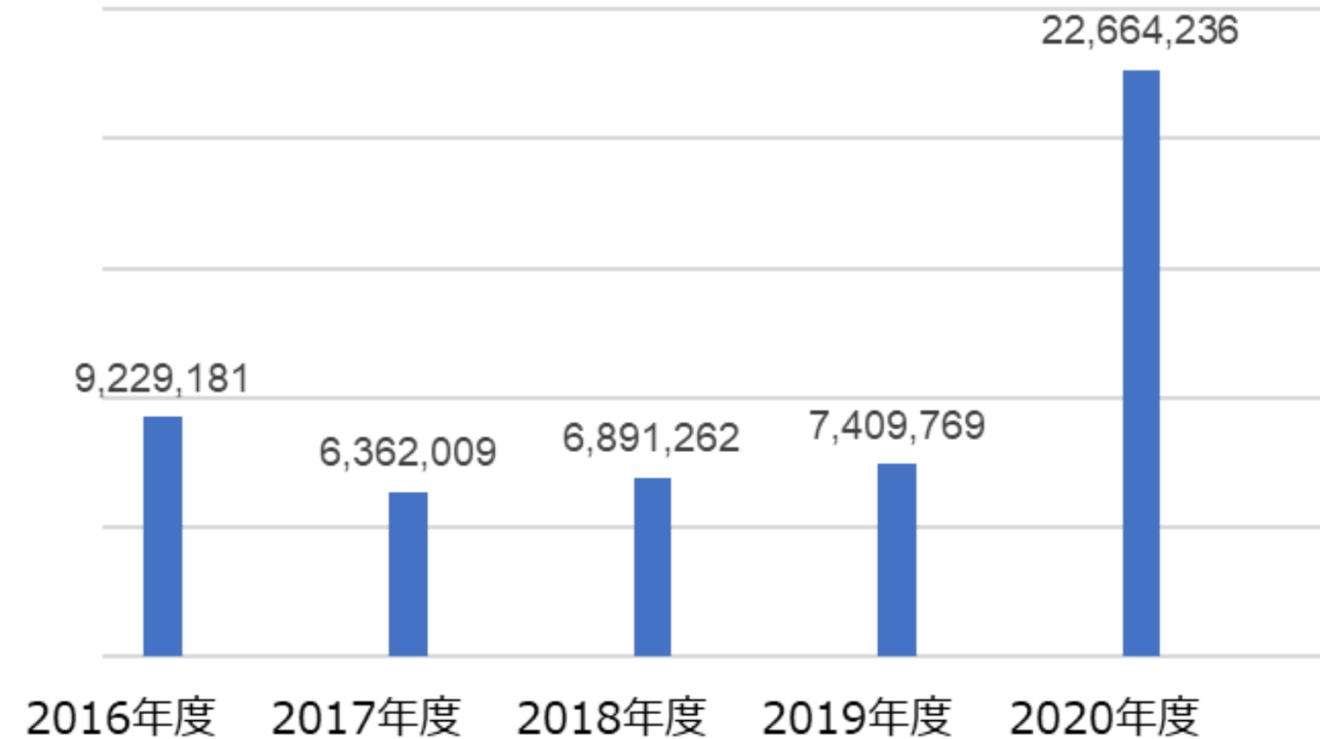


6 収支報告

〈経常収益の推移〉

2020年度より、寄付の増加・仙台市からの委託により事業規模が拡大。

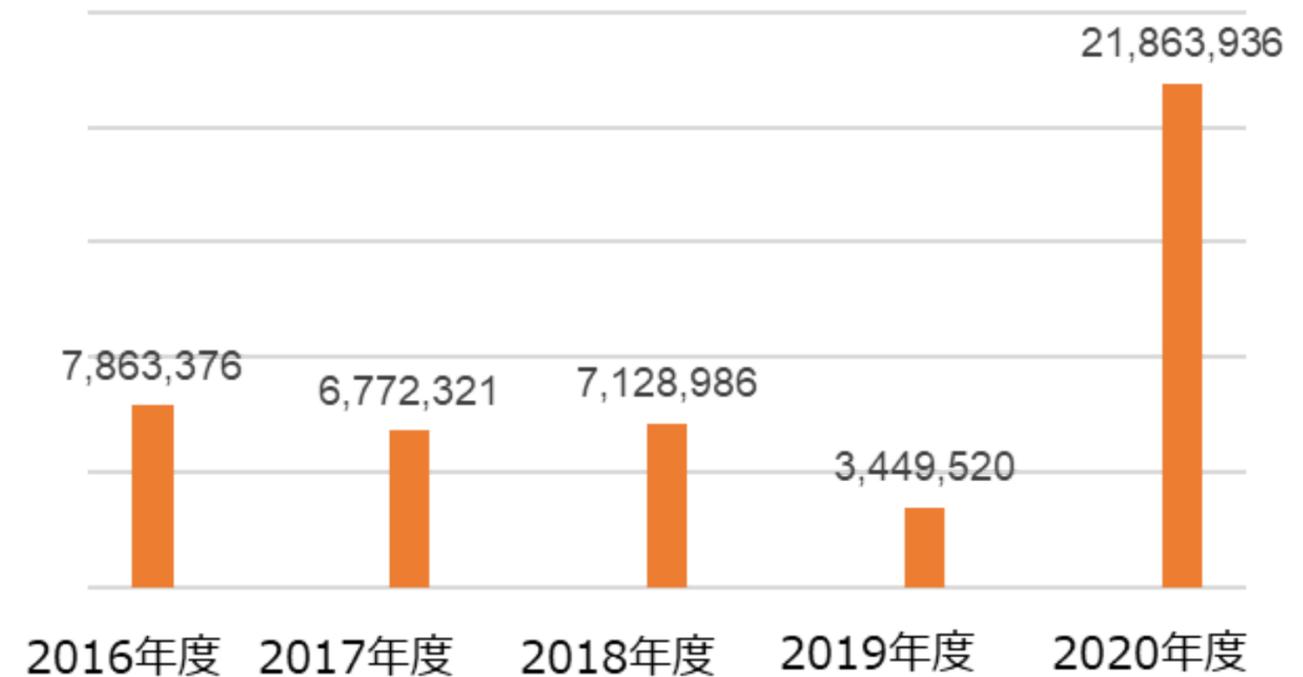
- ◆寄付金 5,301,586円
- ◆助成金 6,576,097円
- ◆委託費 7,312,998円
- ◆その他収益 239,055円



〈経常費用の推移〉

2017~2018年度から費用が上回っていたが、2019年度から収益が上回り、安定した。ご寄附と委託事業等の影響が大きい。

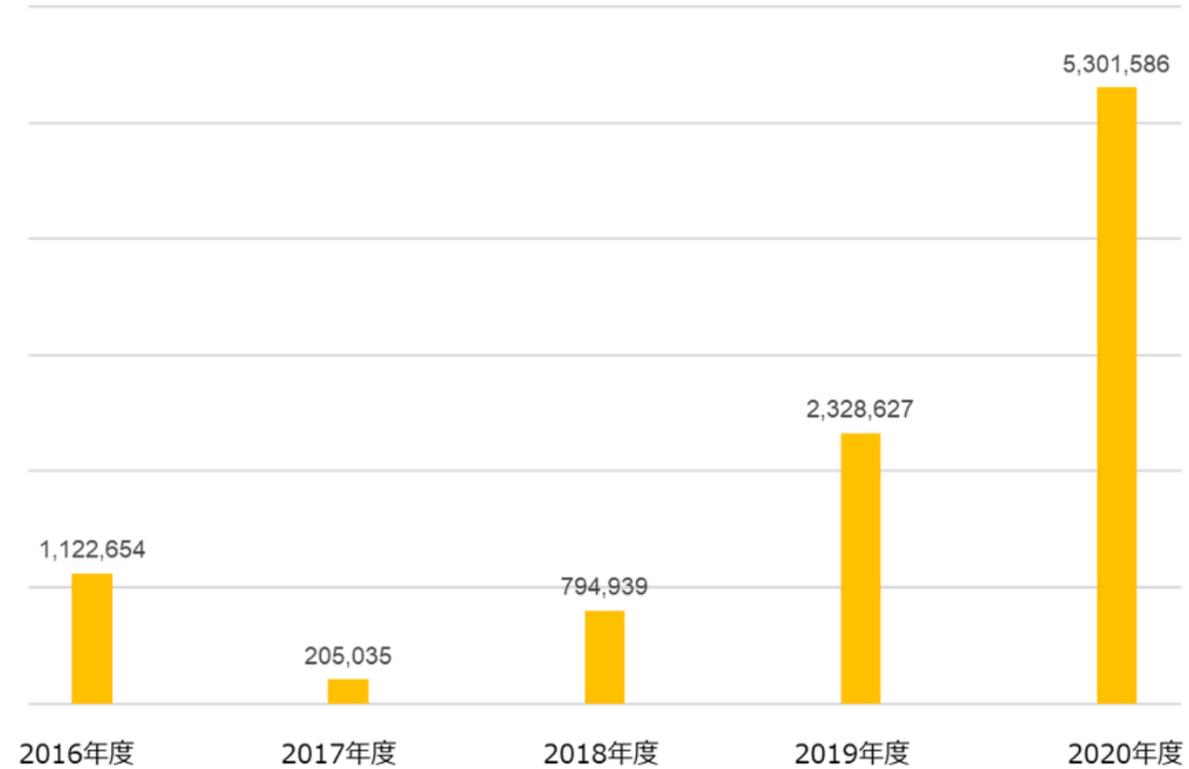
- ◆事業人件費 12,901,850円
- ◆その他の事業経費 7,954,393円
- ◆管理人件費 10,622円
- ◆その他の管理経費 1,008,198円



6 収支報告

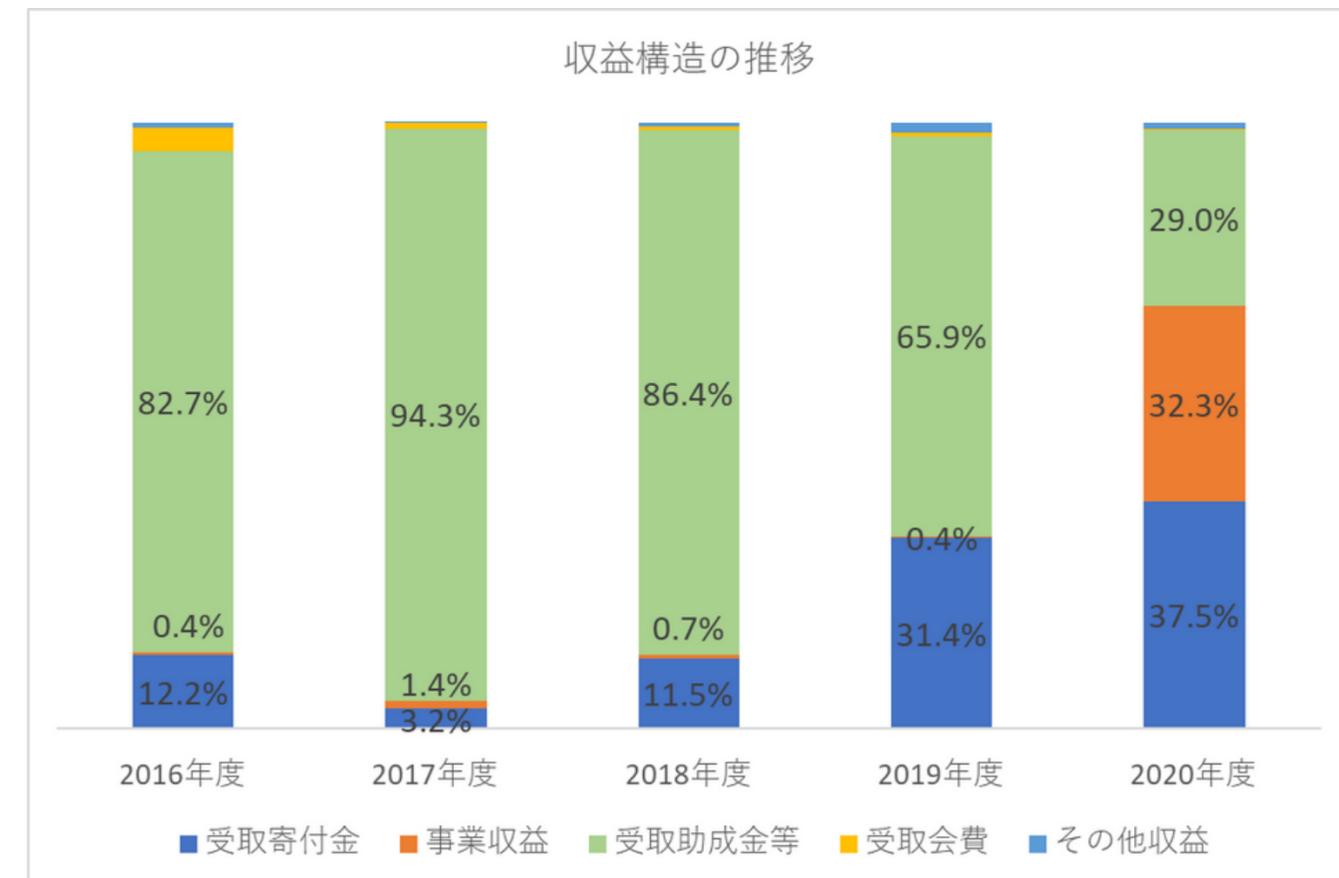
〈ご寄附の推移〉

新型コロナウイルスになった2019年度から、多くの方々にご寄附によるご支援をいただいた。2020年度にはマンスリーサポーターも増え、ご寄付が約530万円に達した。



〈収益構造の推移〉

創業期の2016年から2019年までは助成金比率が高かったが、2019年から寄附比率が伸びた。2020年度は、寄附比率が最も高く37.5%、次に事業収益32.3%、その次に助成金が29.0%と収益構造の偏りが無くなり、団体の収益構造の安定性とバランス性が増した。



7 チームSTORIA : STORIAを支えてくださった方々



◆スタッフ 9名

◆サポーター 205名

子どもたちのサードプレイスや緊急食糧サポートなどの活動をご寄附で支えてくださっています。

◆ボランティア 168名（地域6名・学生130名・社会人32名）

サードプレイスにて子どもたちに直接関わってくださり、あふれるほどの愛情で、ありのままの子どもたちを受け入れ、見守り支えてくれています。

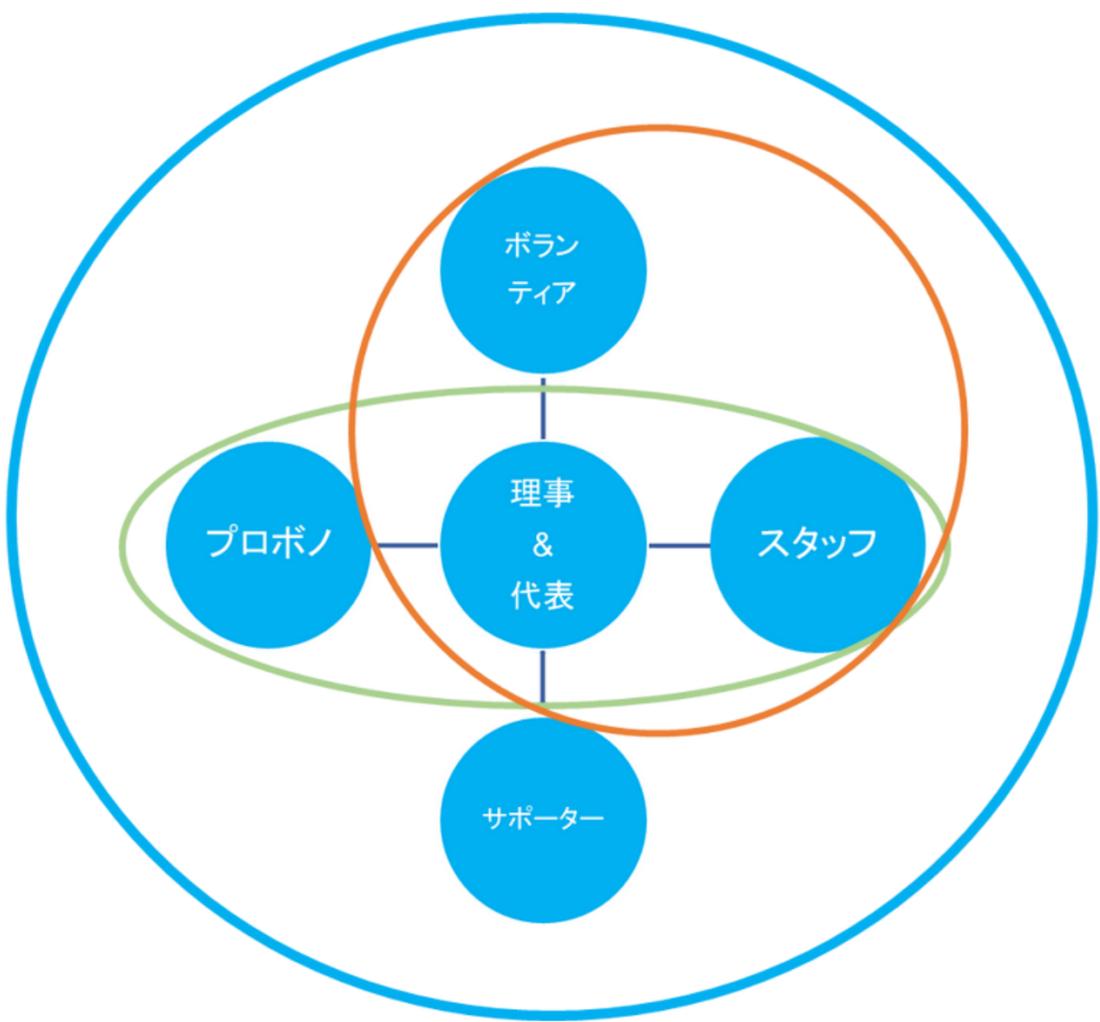


◆プロボノ 37名

東京・大阪・名古屋・アメリカからから参画くださり、STORIAのバックヤード（ファンドレイジング・広報など）のプロジェクトを担ってくださっています。



〈チームSTORIAの共創体制図〉



- ご寄附や品物にてSTORIA全体をサポート
- 子どもたちのサードプレイス事業・アウトリーチ事業
- アウトリーチ事業・ファンドレイジング・広報・人事
対外向け勉強会や研修・大学生の卒論対応・メディア
取材などをサポート

8 MSC（モスト・シグニフィカント・チェンジ）による価値評価

私たちSTORIAでは、これまでの5年間で生み出した成果（＝価値）を検証するために、STORIAにとって大事な存在である
 1.子どもたち 2. 保護者とSTORIAに関わる方（地域・ボランティア・プロボノ・スタッフ）
 3. 私たち自身 4. STORIA そのもの
 の4つの切り口から、どんな変化が生まれたのかを「MSC（モスト・シグニフィカント・チェンジ）」と呼ばれる手法を用いて導き出しました。

MSC手法は、専門家として水谷衣里様に伴走いただきました。



株式会社風とつばさ
 代表取締役 水谷衣里氏



9 2020年度に採択いただいた助成金

(STORIAの6期：2020年10月1日～2021年9月30日)

◆ 『ゴールドマン・サックス地域協働型子ども包括支援基金』
2021年9月に採択され、子どものサードプレイスの2拠点目を同年の12月にオープンすることができました。3年継続の助成金のため、基盤強化や組織基盤も同時に強化し、持続性のある事業に成長させていくことを目指しています。

◆ 『だいじょうぶだよ基金』

2021年9月にだいじょうぶだよ基金に採択され、新型コロナウイルスの影響で生活状況が悪化したひとり親家庭へ食糧支援と生活相談支援を実施できました。

ゴールドマン・サックス

地域協働型

子ども包括支援基金



コロナで苦しむ
ひとり親家庭の親子を
応援したい

だいじょうぶだよ！基金

10 2021年度に向けて

「愛情の循環」が生み出されるためのパーパス経営の実現

『STORIAに関わる全ての方々のパーパスとSTORIAの組織のパーパスが双方ともに尊重され、関わる方々すべての「幸せ」を起点にした「愛情の循環」が生み出される組織経営を行います。』

-Why-

VISIONを達成するには、子ども達や保護者のみならず、STORIAに関わる方々の幸せも同時に実現する必要があります。なぜならば、大人たちが疲弊していたり、不幸せな気持ちの中で、子どもたちだけが幸せになることはあり得ないからです。私たちは、関わる方々すべての「幸せ」を起点にした組織づくりを目指すため、スタッフや地域・学生・社会人ボランティア、プロボノの方々の個人のパーパスをこれまで大切にしてきました。パーパスとは、VISIONやMISSIONの土台にある「目的や存在意義・大切にしている価値観」です。STORIAのパーパスは、「人は存在しているだけで価値があり、素晴らしい可能性を持って生まれてきている」ということを体現していくことにあります。この団体のパーパスと各個人のパーパスが重なり合い、体現されていくことで「安心感・心の充足感・つながり感・やりがい・チャレンジする力」が自然と生まれくると考えています。

-Action-

- ①VISIONとMISSIONの元となる組織のパーパスを明文化する
- ②関わる方々の個人のパーパスを皆で共有し、STORIA『VISION BOOK』を作成する
- ③個人と組織のパーパスが体現される環境をつくる



-感謝のメッセージ-

2020年度も多くの方々に子どもたちや親御さん、STORIAの活動を支えていただきました。支えてくださったお一人おひとりに心から感謝いたします。

